様式 C－19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 10 日現在

機関番号：24201
研究種目：基盤研究（Ｂ）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０４０４０２１
研究課題名（和文）インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on the Formation and Transformation of the Port Cities in the Indian Ocean World

研究代表者　山根　周（YAMANE SHU）
滋賀県立大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：４０２８５２４２

研究成果の概要（和文）：インド西岸から東アフリカに至るインド洋西海域において、海域内の交易拠点として形成された港市の都市空間、建築、住居の空間構成および形成と変容のプロセスを臨地調査に基づき明らかにした。特に 19 世紀半ばから 20 世紀初頭にかけてインド洋海域で活躍した、インドのカッチ地方出身の商人によって結ばれたカッチと東アフリカ沿岸の港市が、建築的にも非常に強い関係を持っていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This research investigated the formation and transformation of the urban space, architecture and houses of the port cities along the Indian Ocean coast from Malabar to East Africa. There are close architectural relationships between the port cities of Kutch (India) and East Africa. Those port cities were tightly connected by the merchants from Kutch region during the middle 19th to first 20th century.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2009 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010 年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
年度			
年度			
総　計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築史・意匠
キーワード：インド洋海域世界、港市、グジャラート、マラバール、ペルシア湾、東アフリカ

１．研究開始当初の背景

(1) I.ウォーラーステインの世界システム論に代表されるように、西欧諸国の進出により、それ以前のインド洋海域の秩序が大きく変化し、この海域に存在したネットワーク構造が崩壊したという見方が、これまで多くの研究者たちによって是認されてきた。このような文脈において、都市計画史の分野では、アジアにおける西欧諸国による都市建設とその変容・土着化を明らかにする研究が展開されてきた。

(2) インド洋に面した内陸世界である西アジア、南アジアにおける都市に関しては、多くの研究蓄積があり、日本でも「イスラームの都市性」、「イスラーム地域研究」などのプロジェクトにおいて、学際的な議論がなされてきた。建築学の分野においても、イスラーム世界やヒンドゥー世界の都市空間、住居形態に関する、丹念な臨地調査に基づく実証的な研究と議論が重ねられてきた。

(3) インド洋海域世界の港市に関しては、東南アジアを舞台としたいわゆる「港市論」、「港市国家論」がある。そこでは、一方で世界秩序に開かれながら一方で地域内秩序を

構築していく場としての港市あるいは港市国家のあり方が議論されるが、都市空間の諸相を具体的に明らかにする詳細な事例研究はなされてこなかった。

インド洋海域世界の都市に関しては、上記のような研究蓄積があったが、インド洋海域世界の交流史という観点から、港市の形成と変容、および都市空間、建築様式、住居形式の諸相とその地域間交流を実証的に明らかにする研究は、ほとんどなされてこなかった。

研究代表者の山根は、インドの歴史的都市空間の構成に関する研究を展開し、また研究分担者の深見はイスラーム建築史を専攻し、インド・イスラーム建築の発展過程に関する研究を継続してきた。2001 年にカッチ地方を震源として発生したグジャラート地震を契機に、被災地域の歴史的建造物や伝統的市街地の被害実態とその修復、復興手法等に関する調査研究を共同で継続してきた。その中で、バドレシュワルという歴史的港市の悉皆的調査を行い、カッチ地方の都市、建築、住居の空間的特質の解明、およびその歴史的、文化的位置づけの評価に努めてきた。

カッチ地方の港市には、古くからのイスラーム商人の交易活動を裏付けるインド最古のイスラーム建築遺構（バドレシュワル／イブラヒーム祠堂／1159 年建立）や、インド洋交易で財をなした商人の邸宅（ハヴェリ）など重要な歴史的建造物が多数残る。邸宅建築には東南アジアから輸入された木材が多用され、またマンドヴィは現在もインド洋交易に活躍する大型木造船の一大建造拠点であるなど、都市、建築の各所にインド洋海域との接点を確認できる。したがって、カッチ地方の都市、建築の正当な歴史的位置づけをおこなうためには、インド内陸部の歴史、文化的伝統を視点とするだけでなく、インド洋を通じた海域世界との文化的交流という視点を導入する必要があると考えるに至った。さらに 2005～06 年度におこなった東アフリカ沿岸、ペルシア湾岸の港市の調査（(財)なら・シルクロード博国際交流財団助成研究）において、例えばタンザニアのザンジバル島に、カッチ出身の商人が築いた建築物や住居が現存していること、ケニアのラムに、カッチ地方出身のイスマイール派コミュニティーのモスクが現存していること、東アフリカ沿岸一帯にカッチ産の扉が使われていることなど、インド洋海域世界における港市の空間的関連性を確認することができた。このような経緯の中で、前述の学術的背景に鑑み、インド洋海域世界の港市の都市構成、建築、住居形式を実証的に明らかにする本研究を構想するに至った。

２．研究の目的

本研究は、東南アジアから東アフリカにまで広がる広大なインド洋海域世界において、海域内の交易拠点として形成された港市に着目し、その都市空間、建築、住居の構成、および形成と変容のプロセスを臨地調査に基づき明らかにすることを大きな目的とする。本研究における対象地は、インド洋海域世界の中で、インドのグジャラート商人の活発な交易活動により、経済的、文化的に密接な交流があった、インドのカッチ地方、ペルシア湾岸地域、東アフリカ沿岸とする。18～19 世紀を中心にインド洋交易において重要な役割を果たしたカッチ地方出身のバティア Bhatia（ヒンドゥー教徒）、ヴァニア Vania（ジャイナ教徒）、コジャーKhoja（イスラーム教徒）等の商人コミュニティーが拠点とした、カッチのムンドラ、マンドヴィ、オマーンのマスカト、イエメンのアデン、タンザニアのザンジバル島、ケニアのモンバサ、ラムなどを具体的事例とし、時代的には 18 世紀後半～現代を中心的な検討対象時期として、各港市の形成と変容、および都市構成、建築、住居の空間構成および諸要素の地域間交流・伝播の実態を明らかにすることを目的とする。

具体的な課題は以下の通りである。

(1) 各港市の都市形成と変容過程の解明(一次史料、二次資料文献等による)。
(2)カッチのムンドラ、マンドヴィの都市構成を明らかにする悉皆的調査（主要都市施設の配置/街路の形態と階層性/街区空間の構成/コミュニティー(カースト･職業集団など)の分布/建築や住居の空間構成など)。
(3)ペルシア湾岸、東アフリカ沿岸港市の都市構成調査（主要都市施設の配置/街路形態/街区構成など）
(4)建築・住居の形式および諸要素の交流と伝播の実態の解明（宗教建築/宮殿建築/ハヴェリ(邸宅)などを対象とし、空間構成、建築部材、装飾要素などの視点から分析・考察する)。
(5)18世紀後半～20世紀前半を最盛期としたグジャラート系商人の交易活動の実態、および、各港市間の政治的、経済的連関とその史的変遷を明らかにし、港市の形成・変容との関わりを考察する。

３．研究の方法

各都市の実態と都市相互の関連性を明らかにするために、地図、文献の収集とともに、臨地調査において建造物の実測、聞き取り等を行い、ひと、もの、技法、様式等の移動とその変遷を明らかにする。カッチの商人が、宗教、カーストなどの集団ごとに活動していたことをふまえ、各コミュニティーの宗教施設およびその建築材料、建築構法、建築意匠等に注目し、都市間比較を視点に整理を行い、

建築的諸要素の伝播の経路を考察する。

臨池調査においては、カッチ地方、アラビア半島、東アフリカ沿岸部における調査対象都市に関して以下のような3段階の建築調査および聞き取り調査をおこなう。

①都市施設分布調査および悉皆的コミュニティー調査⇒旧市街地の住戸区画が描き込まれている大縮尺の詳細地図を入手、あるいは作成し、公共建築、街路名称、街区名称、それぞれの家のサブ・コミュニティーを地図上にプロットする。この調査により、都市全体の空間構造を把握する。

②街区構成調査⇒市街地において、宗教やコミュニティーに根差した特色ある街区を選択し、宗教施設、公共建築、住居群の平面構成を図化する。また、街区での聞き取り調査を行い、街区の歴史的変容をとらえ、宗教やコミュニティーによって異なる街区レベルでの空間構造と住まい方の特色を明らかにする。

③ハヴェリ（邸宅建築）および重要建造物の建築実測調査⇒19 世紀以前の建設と考えられる建造物を選定して、立面図、断面図、細部意匠図の作成等、詳細な建築調査を行う。カッチ地方のムンドラ、マンドヴィに関しては、ハヴェリの詳細調査を行う予定である。また、マスカト、アデン、ザンジバル、モンバサ、ラムに関しては、インド出身者との関連性をもつ建造物を中心に、建築調査により材料、構法、意匠に関するデータを収集し、住人の家族史の聞き取り調査を行い、居住プロセスの来歴を明らかにする。

研究体制としては、山根、深見の他に、アラビア語史料を読み解き、インド洋海域における人の移動と交流を中心とした歴史研究を継続する鈴木、カッチ地方の歴史都市バドレシュワルにおいて伝統的住居の研究を行っている岡村、グジャラート地方、カッチ地方の歴史、文化を専攻する M.メフタ、P.ジェティ、東アフリカの都市・建築を専門とする E.メファート、スワヒリ文化を専攻する M.ムウェンジェらを研究協力者に迎えた。

４．研究成果

2008 年度は、インド洋海域世界の中で、本研究が主たる対象とする、「インド洋西海域世界」を広範に調査し、港市の全体像を把握することを課題とした。具体的にはインド・カッチ地方、東アフリカ、アラビア半島沿岸および周辺地域における臨地調査を計画し、イエメン、オマーン、インド、イランにおいて臨地調査を行った。イエメン、オマーンでは、ホデイダ、モカ、アデン、ムカッラ、マスカト、スール等の港市、およびサナア、ハドラマウトなどの内陸都市の空間構成に関する調査を行い、イエメンのムカッラとオマーンのマスカトでは、施設分布、建築構法、様式等に関する悉皆調査をおこなった。インドでは、カッチ地方のバドレシュワル、ムンドラ、マンドヴィでの都市、住居についての悉皆的調査の他、グジャラート沿岸のキャンベイ、バルーチ、スーラト、ダマン等の港市の調査をおこない、ダマンでは旧市街の施設分布、街区構成等に関する悉皆調査を行った。イランでは、ペルシア湾岸のデイラム、ゲナヴェ、ブーシェフル、カンガン、シーラーフ遺跡、レンゲ、コング、キシュ島、バンダル・アッバース、ケシュム島、ホルムズ島、ミナーブ等の港市の調査を行い、ブーシェフル、カンガン、ケシュム島において、現地機関より入手した詳細な地図に基づき、街区構成、施設分布等に関する悉皆的調査をおこなった。調査により、対象地域の港市の地理的、地政学的特性や、内陸の支配権力との歴史的関連性、生態的環境と建築工法・様式との関連性等について、地域的差異を含めて把握することができ、また現在も機能するいくつかの主要な港市の空間特性に関するデータの収集を行った。

2009 年度は、インド、マラバール地方、および東アフリカ沿岸の港市を臨地調査することにより、「インド洋西海域世界」の港市の全体像を把握した。マラバール地方では、クイロン、コチン、カリカット、マンガロール、バトカル、ゴア、ダボル、ジャンジーラなどの主要港市において都市構成に関する調査を行った。特にカリカットにおいて、都市形成に関する資料収集をおこない、ムスリムの商人コミュニティーが集住するクティチラ地区において、施設分布、街区構成、コミュニティー分布、住居の空間構成、建築構法等に関する悉皆的調査をおこなった。その結果、カリカットとインドのグジャラート地方やアラブ地域、特にイエメン、ハドラマウト地方との歴史的交流が明らかになったほか、母系制に基づく大家族が居住する、タラワードと呼ばれる独特な伝統的住居形態や、倉庫、事務所、住居の機能が一体となったパンディカシャラと呼ばれる住居の空間構成について明らかにした。また、東アフリカ沿岸では、ザンジバル島（タンザニア）、ラム（ケニア）において悉皆的調査を行い、インドのカッチ地方出身の商人が建てた建築、住居に関して、その空間構成、建築様式などを明らかにし、カッチ地方と東アフリカ沿岸の港市の緊密な結びつきが都市、建築、住居の空間構成や装飾等に反映されていることを確認した。

2010 年度は、インド、グジャラート地方の歴史的港市キャンベイ、および同じくグジャラート地方のカーティアワール半島に位置するソームナート・パタン、マングロールにおいて、施設分布、街区構成、コミュニティー分布、住居の空間構成、建築構法等に関

する悉皆的調査をおこなった。キャンベイにおいては、ヒンドゥー教徒、ジャイナ教徒、ムスリムが混在する街区空間の構成が大変興味深く、中でもインド洋交易において重要な役割を果たしたシーア派に属するムスリムであるボーホラー・コミュニティーの居住区について、街区構成や住居の空間構成の詳細を明らかにした。臨地調査に加え、ロンドンの British Library において、インド洋海域世界における港市の歴史地図資料の収集を行った。主としてポルトガル、オランダ、イギリスによって作成された主要港市の地図、絵図等は、17 世紀以降のインド洋海域港市の空間的変遷を知る上で貴重な資料である。また、10 年度には、論文、学会発表に加え、インド、カッチ地方の港市に関する調査研究成果を英文でまとめた報告書「Reports on the Architectural Heritage of Bhadreshwar, Mundra and Mandvi: Studies on the Port Cities of Kutch, Gujarat」を自主刊行した。

近年、インド洋海域世界におけるひと、モノ、情報の移動と交流の歴史に関する研究は盛んになっている。その中で、本調査研究の成果は、建築学の分野において、インド洋海域世界の港市を対象とし、海域内の交易ネットワークを視点として都市、建築、住居の構成を明らかにしたものとして、先駆け的位置づけができると考える。特に 19 世紀半ば～20 世紀初頭にかけてインド洋海域で活躍した、インドのカッチ地方出身の商人によって結ばれたカッチと東アフリカ沿岸の港市が、建築的にも非常に強い結びつきを持っていることを明らかにしたことは、大きな成果である。

今後、インド東岸から東南アジアにかけてのいわゆるベンガル湾海域世界、南シナ海海域世界の港市に調査研究対象を広げ、インド洋海域世界の港市における都市、建築、住居の空間的連関、伝播、融合の諸相を、カッチを含めたグジャラート地方の商人コミュニティーのネットワークという視点から明らかにすることが次なる課題である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 19 件）

① 山根　周、アラビア海・インド洋海域世界における港市の形成と変容、第 3 回全球都市全史研究会報告書、査読無、2010、pp.13－23

② 深見奈緒子、移動によって培われた港市－都市と建築にみる海域世界のネットワーク、第 3 回全球都市全史研究会報告書、査読無、2010、pp.79－83

③ 深見奈緒子、ハキーム理論にみる‘アラブのまちづくりの原理’とイスラーム世界での応用、西アジア・エジプトにおける古代都市の成立と発展－都市景観の背後にあるもの、査読無、2010、pp.11－29

④ Naoko Fukami、3.The old walled city of Shibam and its surroundings, 4.Cultural heritage in the Hadramawt region, 5. Conclusion、Flood Damage Assessment Report on the Cultural Heritage in Hadramawt, Yemen、査読無、2010、pp.11－29

⑤ 川井　操，布野修司，山根　周、西安旧城・回族居住地区の棲み分けの特性に関する考察、日本建築学会計画系論文集、査読有、Vol.75 No.651、2010、pp.1097－1102

⑥ 深見奈緒子、イスラーム建築史の誕生、ヘレニズム～イスラーム研究会、査読無、2010、pp.106－116

⑦ 深見奈緒子、食から見た都市－地域と歴史を縦断して、第 4 回全球都市全史研究会報告書、査読無、2010、pp.56－59

⑧ 深見奈緒子、モスク建築の歴史、UAE、査読無、No.48、2010、pp.17－20

⑨ 鈴木英明、サイード・ビン・スルターン没後のアフリカ大陸東部領土相続をめぐる経緯―奴隷流通構造における沿岸部スワヒリ社会の機能変化に関する追論―、スワヒリ＆アフリカ研究、査読有、22 巻、2010、pp.1－24

⑩ 岡村知明、カッチ地方の港市のサヴカーストとその住まい方について－マンドヴィの街区形成と住み分けの構造－、ヘレニズム～イスラーム研究会、査読無、2010、pp.117－130

⑪ 岡村知明，山根　周，深見奈緒子、ムンドラ（インド，カッチ地方）における街区構成とカーストの住み分け、日本建築学会計画系論文集、査読有、Vol.74 No.641、2009、pp.1507－1514

⑫ 山根　周、インドの都市における構成原理の固有性・重層性・相互作用、国立歴史民俗博物館国際シンポジウム 2008「アジア比較建築文化史の構築－東アジアからアジアへ－」報告書、査読無、2009、pp.74－93

⑬ 深見奈緒子、ペルシア湾岸調査から－建築文化におけるアラブ的、イラン的、インド的性質とは、第 16 回ヘレニズム～イスラーム考古学研究、査読無、2009、pp.98－104

⑭ 深見奈緒子、3.シバームとその近傍の遺産　4.ハドラマウト地方の遺産　5.おわりに、イエメン共和国ハドラマウト地方洪水による被災文化遺産調査報告、査読無、2009、pp.11－26

⑮ 岡村知明，山根　周，深見奈緒子，羽生

修二、バドレシュワル（インド，カッチ地方）におけるファディアの構成、日本建築学会計画系論文集、査読有、No.625、2008、pp. 503－510

⑯ 岡村知明，山根　周，深見奈緒子，羽生修二、バドレシュワル（インド，カッチ地方）における伝統的住居の構成、日本建築学会計画系論文集、査読有、No. 634、2008、pp. 2549－2556

⑰ Shu Yamane, Shuji Funo and Takashi Ikejiri 、Space Formation and Transformation of the Urban Tissue of Old Delhi, India、Journal of Asian Architecture and Building Engineering、査読有、Vol.7 No.2、2008、pp. 217－224

⑱ 深見奈緒子、リビング・ヘリテージの国際協力の諸相－アーガー・ハーン開発ネットワークの歴史都市支援プロジェクト、リビング・ヘリテージの国際協力、査読無、2008、pp. 88－93

⑲ 深見奈緒子、ラールのミフラーブ－海を渡る建築、第15回ヘレニズム～イスラーム考古学研究、査読無、2008、pp.64－71

〔学会発表〕（計 28 件）

① 岡村知明、インド・グジャラートの歴史的港町における都市空間構造とコミュニティー構成：カッチ地方にみるカーストの住み分けとその変容を中心に、第 7 回全球都市全史研究会、2011 年 3 月 29 日、東京大学

② Shu Yamane, Keiichi Nakajima, Naoko Fukami、Spatial Formation of the Port Cities of Calicut, India 、8th International Symposium on Architectural Interchange in Asia、2010 年 11 月 9 － 12 日 、Kitakyushu International Conference Center

③ Tomoaki Okamura, Shu Yamane, Naoko Fukami、Spatial Formation of the Port Cities of Kutch Region, India、8th International Symposium on Architectural Interchange in Asia、2010 年 11 月 9－12 日、Kitakyushu International Conference Center

④ 鈴木英明、ペルシア湾におけるカワースィムの実態とその『海賊』行為、第 2 回海賊研究会、2010 年 9 月、東京大学

⑤ Shu Yamane、Urban Formation of the Port Cities of Kutch and Malabar、International Conference: The City in South Asia,The Centre for Contemporary India Area Studies at the National Museum of Ethnology (Minpaku)、2010 年 7 月 18－20 日、National Museum of Ethnology（国立民族学博物館）

⑥ 鈴木英明、インド洋西海域世界と『近代』、ユーラシア科研第2回若手報告会、2010年7月、東京大学

⑦ 鈴木英明、19 世紀半ばのインド洋西海域における奴隷交易とその廃絶活動—二項対立図式の向こう側—、コンフリクトの人文学セミナー第 49 回、2010 年 6 月、大阪大学

⑧ 鈴木英明、1860 年代東アフリカ沿岸部の『奴隷船狩り』: 奴隷交易廃絶活動の実態、第 47 回日本アフリカ学会学術大会、2010 年 5 月、近畿大学

⑨ 鈴木英明、インド洋西海域における奴隷制度と奴隷交易—研究の現状と課題—、ワークショップ 17－19 世紀ユーラシアにおける「奴隷」をめぐって、2010 年 5 月、東京大学

⑩ 深見奈緒子、歴史都市における中庭式住居－伝統と未来、早稲田大学イスラーム地域研究機構公開講演会、2010 年 3 月 20 日、早稲田大学

⑪ 深見奈緒子、ハキーム理論にみる‘アラブのまちづくりの原理’とイスラーム世界での応用、日本西アジア考古学会公開シンポジウム、2010年1月30日、早稲田大学

⑫ 山根　周、アラビア海・インド洋西海域世界における港市の形成と変容、第3回全球都市全史研究会、2009年11月28日、東京大学

⑬ 深見奈緒子、建築文化にみるイスラームとは？、早稲田大学イスラーム地域研究機構定例研究会、2009年9月30日、早稲田大学

⑭ 山根　周，岡村知明，西村弘代，深見奈緒子，布野修司、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する研究　その1　ムカッラー旧市街（イエメン，ハドラマウト州）の都市構成と集住形式、日本建築学会大会、2009年8月28日、東北学院大学

⑮ 山根　周，岡村知明，西村弘代，深見奈緒子、インド洋海域世界における港市の形成と変容に関する 研究　その2　スール・ラワティヤ地区（オマーン，マスカット）の空間構成、日本建築学会大会、2009年8月28日、東北学院大学

⑯ 中島佳一・鮫島拓・岡村知明・布野修司・山根　周、インドにおけるパトリック・ゲデスによる都市計画に 関する研究　その1　バローダBarodaの都市形成と街区空間、日本建築学会大会、2009年8月27日、東北学院大学

⑰ 中島佳一・鮫島拓・岡村知明・布野修司・山根　周、インドにおけるパトリック・ゲデスによる都市計画に 関する研究

その2　バローダBarodaにおける保存的外科手術Conservative Surgeryによる都市計画と街区空間の変容、日本建築学会大会、2009年8月27日、東北学院大学

⑱ 深見奈緒子、ペルシア湾岸調査から－建築文化におけるアラブ的、イラン的、インド的性質とは、第16回ヘレニズム～イスラーム考古学研究、2009年7月4日、金沢大学

⑲ 山根　周、カッチ地方の港市とインド洋海域世界、第2回都市計画研究室オープンセミナー「『計画』の可能性」、2009年6月30日、近畿大学

⑳ 山根　周、インドの都市、国立歴史民俗博物館国際シンポジウム2008「アジア比較建築文化史の構築－東アジアからアジアへ－」、2008年12月6日、国立歴史民俗博物館

㉑ 鈴木英明、インド洋西海域世界のなかの東アフリカ沿岸部－カッチ－商人を事例にして－、日本アフリカ学会関西支部2008年度第2回例会、2008年11月24日、大阪大学

㉒ Hideaki Suzuki、Formation of Slave Raiders: British Anti－Slavery Activity and Slave Raiding, 1820s－1860s、The 20th Conference of the International Association of Historians of Asia、2008年11月14－17日、Jawaharlal Nehru University (New Delhi, India)

㉓ 深見奈緒子、ムカルナス(鍾乳石飾り)からみたイスラーム建築、東洋史研究会大会、2008年11月3日、京都大学

㉔ 岡村知明，山根　周、インド・カッチ地方における港市の構成に関する研究　その３　ムンドラの都市構成、日本建築学会大会、2008年9月20日、広島大学

㉕ 山根　周、インド洋海域世界における港市－カッチ地方を中心に－、国立民族学博物館共同研究会「南アジアにおける都市の人類学的研究」、2008年7月12日、国立民族学博物館

㉖ 中濱春洋，岡村知明，柳沢究，布野修司，山根　周、バリ・バザール地区（ヴァーラーナシー）におけるモハッラの構成に関する研究　その１、日本建築学会近畿支部研究報告、2008年6月22日、大阪工業技術専門学校

㉗ 中濱春洋，岡村知明，柳沢究，布野修司，山根　周、バリ・バザール地区（ヴァーラーナシー）におけるモハッラの構成に関する研究　その２、日本建築学会近畿支部研究報告、2008年6月22日、大阪工業技術専門学校

㉘ 鈴木英明、19世紀沿岸部スワヒリ社会の奴隷制再考、日本アフリカ学会第45回学術大会、2008年5月24日、龍谷大学

〔図書〕（計７件）

① Shu Yamane、Naoko Fukami and Tomoaki Okamura eds.、Project Gujarat、Reports on the Architectural Heritage of Bhadreshwar, Mundra and Mandvi - Studies on the Port Cities of Kutch, Gujarat、2011、200

② 深見奈緒子、サウジアラビア大使館文化部、世界に広がるイスラーム建築—普遍性と多様性（『日本に生きるイスラーム－過去・現在・未来』）、2010、35

③ 秋枝ユミイザベル・岡村知明編、国立文化財機構東京文化財研究所、『西スマトラ州パダンにおける歴史的建造物および町並み復興支援』、2010、165

④ 深見奈緒子編、彰国社、イスラム建築がおもしろい、2009、238

⑤ 布野修司・山根　周、京都大学学術出版会、ムガル都市：イスラーム都市の空間変容、2008、443

⑥ 深見奈緒子、名古屋大学出版会、研究案内：建築史（小杉泰,林佳世子,東長靖 編『イスラーム世界研究マニュアル』）、2008、212－217

⑦ 深見奈緒子、東信堂、テヘラーンのバーザール－仕方ない持続（木村武史 編『千年持続学の構築』）、2008、59－76

６．研究組織

(1)研究代表者

山根　周（YAMANE SHU）

滋賀県立大学・人間文化学部・准教授

研究者番号：４０２８５２４２

(2)研究分担者

深見　奈緒子（FUKAMI NAOKO）

早稲田大学・イスラーム地域研究機構・准教授

研究者番号：７０４２４２２３

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

鈴木　英明（SUZUKI HIDEAKI）

日本学術振興会特別研究員（東洋文庫）

岡村知明（OKAMURA TOMOAKI）

国立文化財機構東京文化財研究所・研究員

マクラン・メフタ（MAKRAN MEHTA）

グジャラート大学・名誉教授

プラモード・ジェティ（PRAMOD JETHI）

アイナマハル博物館・学芸員

エリック・メファート（ERIC MEFFERT）

ダルエスサラーム大学・名誉教授

モハンメド・ムウェンジェ（MOHAMMED MWENJE）

ラム・フォート博物館・学芸員